

ソラマメ

やさいの里営農センター 営農指導員 中村 克己



写真②
ソラマメの四方換気

ソラマメは本葉5枚以上になると耐寒性・耐暑性ともに弱くなります。特に低温期に開花する低段の花を守るため、トンネル被覆と換気は重要です(生育適温16〜20℃)。

トンネル被覆直後は、株間50cmの間に換気穴(直径5〜7cm)を2個開けておきます。2月中・下旬から換気穴を増やし、3月中・下旬を目安に四方換気になるよう徐々に換気量を増やしましょう(写真②)。収穫が近くなったマルチを剥がし、地温の上昇を抑えてください。

今後の管理

●トンネル換気

●**整枝と土入れ**
採光性を高め、3粒莢を多くするため3月上・中旬ごろから整枝を行いましょう。節間の詰まった太い側枝を1株当たり10本程度残します。主枝と芯止まりの側枝は株元から除去します。草勢が弱く、側枝の少ない株は放任します。

整枝後、株の中央部に置土をすることで、採光性の向上と新たな側枝の発生を防ぐことができます。近年は放任栽培が増えていますが、3粒莢を増やす管理を行うことで、収穫の労力軽減や、収量増加につながります。

●**乾燥対策**
昨年は、年末から1月後半にかけてまとまった雨が少なく、乾燥状態が続きました。そのため、生育初期の根張りが不十分でその後の生育にも影響を及ぼしました。

今年度は、可能な範囲で定期的な灌水をお薦めします。開花期までは圃場が乾燥したら灌水し、開花期以降は7〜10日おきに5〜7mm程度、灌水してください。

表② ソラマメのアブラムシに登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
アディオン乳剤	3000倍	収穫7日前まで	3回以内
アドマイヤーフロアブル	4000倍	収穫7日前まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内
ダントツ水溶剤	2000〜4000倍	収穫3日前まで	3回以内

●病害虫防除

アブラムシは乾燥状態のときに大発生します。アブラムシはウイルス病を媒介し、生育不良や莢の肥大不良の原因となる恐れがあります(写真③)。

③。発生初期の薬剤防除(表②参照)を心掛けましょう。



写真③
ソラマメのアブラムシ被害

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。

12月の分析経過について

合計3点	
イチゴ	1点
ネギ	1点 (インショップ)
ニンジン	1点 (インショップ)
合計12点	

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

残留農薬分析点数 多成分一斉分析 土壌診断点数

水 稲

営農部営農振興課 水稲専門指導員 石井 枝里奈



コシヒカリの遅植えで育苗回数を増やす

慣行栽培(4月下旬〜5月上旬植え)の後に播種・育苗すること、育苗枚数を増やします。しかし、病気や倒伏などのリスクは高まるので注意が必要です。

①あらかじめ生育ステージ(表①参照)を確認し、その時期に用水が確保できるか確認しておきましょう。

②気温の高い時期に育苗するので、温度管理・病害防除・苗の老化に十分気を付けてください(育苗日数の目安:15〜20日)。

③倒伏による品質低下を避けるためには、元肥・追肥ともに窒素量で10g/㎡当たり1〜2g減肥しましょう(慣行より収量は落ちます)。

表① 生育ステージの目安

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中
慣行栽培	播種	田植	中干し		出穂		収穫
5月中旬植え		播種	田植	中干し	出穂		収穫
5月下旬植え			播種	田植	中干し	出穂	収穫

④ 茎数を確保するため、極端な疎植は避けて坪50〜55株、1株当たり4〜5本植えましょう。

⑤ 分げつ最盛期が梅雨にあたるため、いもち病防除を徹底してください。

※ふさがねなどの早生品種の遅植えは、分げつ期間が短くなり、茎数(穂数)を確保できず、収量低下の恐れがあるので避けましょう。

疎植栽培

疎植栽培とは、株間を広げて植えることで必要な苗箱数を通常よりも減らす技術です。通常の坪60株から坪48〜37株植えにすることで苗箱数を2〜4割削減できます。ただし、収量低下を防ぐために次の点に注意してください。

① 分げつ期間をしっかりとって茎数を確保するため、田植えは4月中旬に行います。

② 初期生育を促進するため、田植え後の水管理や除草剤の散布時期に注意しましょう。

③ 必要な茎数を確保できたら中干しを行いましょう。中干しを行わない場合、過繁茂(無効分げつの増加)による倒伏や未熟粒の増加につながり、収量が低下します。

コシヒカリの中干し開始目安:320本/㎡(例:坪48株植えの場合、1株当たり22本)

※早生品種は生育期間が短いので、疎植では必要茎数(穂数)が確保できずに減収する恐れがあります。早生品種の疎植は避けましょう。

露地プール育苗

露地プール育苗とは、ハウスではなく露地に育苗用プールを作り、その中で育苗する技術です(写真①)。平らにした苗床に塩ビ管やポリシートで枠を作り、出芽した苗箱を並べます(出芽までは育苗器や積み重ね育苗を行います)。べたがけ被覆をして2日間緑化した後、枠の中に水を張ります。毎日の灌水は不要です。プール内の水が減ったら入水してください。

水を含みため苗箱が重くなる欠点があるほか、風や温度の影響を受けやすいので、注意点が多くあります。興味のある方は、営農・経済センターで技術資料をご確認ください。



写真①
露地プール育苗の様子